

中学校第1学年 国語科 学習指導案

期 日 平成 28 年 10 月 7 日 (金) 第 4 校時
場 所 錦町立錦中学校 1 年 2 組教室
指導者 教諭 上 渕 匡 基

1 単元名

「本文の根拠となる図表を探しだそう！」～図表の持つ役割や効果を考える～
(「シカの『落ち穂拾い』」ーフィールドノートの記録からー)(光村図書「国語1」)

2 単元について

(1) 単元観

生徒が日々の生活で読む様々な種類の文章には、文学的文章だけでなく、説明や記録の文章も多く存在する。そして、その説明や記録の文章には図表が使われていることが多い。書き手の伝えたい内容をよりの確に読み取るためには、文章と図表の関係性や図表が果たしている役割と効果を理解することが重要である。

本単元は、学習指導要領第1学年読むこと「エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと」を受け、文章の構成や展開を分析的に捉え、その工夫や効果について自分の考えをもつことを学習する。教材文は記録文であり、シカの菜食行動(「落ち穂拾い」)に興味を持った筆者が、実際の研究の過程を観察→仮説設定→検証→考察という構成で記述している。「事実を述べた部分とそれに基づく筆者の考えを述べた部分」や「論の展開の中心となる部分とそれを支える例示や引用などの付加的な部分」が読み分けやすい文章になっている。

また、本文に加えいくつかの図表が提示されている。それらは、文章の意図を分かりやすく伝えているとともに、文章を支える根拠として説得力を増すはたらきをしている。その点で、文章の内容と図表との関連や図表の役割と効果についても考えやすい単元である。

これらのことから、本単元において図表のもつ役割や効果を主体的・対話的に考える学習を行うことは、これからの社会に求められる資質・能力として設定した「伝え合う力」の獲得につながると考える。同時に、本校の学校目標の「夢を持ち、自ら学び、礼節を重んじる生徒の育成」及び目指す生徒像の「自ら考え、実践から学ぶ生徒」の実現にも寄与するものであると捉える。

(2) 系統観

1 年	2 年	3 年
「大根は大きな根?」「ちょっと立ち止まって」(説明) C読むこと(1)ア、イ、エ(2)イ	「生物が記録する科学」(説明) C読むこと(1)イ、エ(2)イ	「月の起源を探る」(説明) C読むこと(1)ア、イ、ウ(2)イ
「シカの『落ち穂拾い』」(記録) C読むこと(1)イ、エ(2)イ	「モアイは語る」(論説) C読むこと(1)イ、ウ、エ(2)イ	「新聞の社説を比較して読もう」 (論説) C読むこと(1)イ、ウ(2)イ
「幻の魚は生きていた」(説明) C読むこと(1)イ、オ(2)ウ	「君は『最後の晩餐』を知っているか」(評論) C読むこと(1)イ、ウ、エ(2)イ	「作られた『物語』を超えて」(論説) C読むこと(1)ア、イ、ウ、エ(2)イ

(3) 生徒観

- 4月のNRT検査の結果を見てみると、全国と学級の全体の正答率では、約6ポイント下回っている。
さらに、「読むこと」領域を見てみると、全国の正答率は65.0%、学級の平均は55.9%と約9ポイント下回っている。
- 事前にとった国語に関するアンケートの結果は以下の通りである。

質 問 項 目	肯定的回答
国語は好きですか?	52.9%
説明的文章の授業は理解できていますか?	79.4%
説明的な文章を読むとき、事実と筆者の意見を読み分けて内容を理解していますか?	76.5%

図表がある文章を読むとき、図表から読み取れることを考えながら読んでいますか？	55.9%
説明的な文章を読み、新たな考えを発見し、自分の考えを広くしようとしていますか？	85.3%

アンケートの結果から、国語に対する苦手意識はあるものの、説明的な文章の授業は理解できていると答えた生徒が多く、事実と意見を読み分けて理解していると答えている生徒も多い。

- 以上のことから、国語に対する苦手意識を考慮しつつ、図表等にはどのような役割や効果があるのか、また、事実と意見を読み分けるためにはどうすればいいかなど、基礎的・基本的事項の理解を徹底させ、丁寧に読み取らせながら授業を進めていく必要がある。
- また、「これからの社会に求められる資質・能力」として設定した「伝え合う力」について、生徒は自分の考えを表現することに対して、やや苦手意識が見られる。ただ、友達と交流することで周りの意見を聞くことに対しては、肯定的に捉えている生徒が多い。それは、自分の考えに自信が持てず、他人の力を借りたいという思いが先行しているからだと考えられる。しかし、分かりたいという欲求の表れと考えられる面もあるため、個人で考えをまとめ、それを伝え合うための活動をいかに工夫するかが重要になってくると考える。

(4) 指導観

- このような生徒の実態を踏まえ、地域の未来について書かれた文章（「錦町人口ビジョン」）を参考に、「単元を貫く問い」を「錦町が目指すべき将来の方向性をより多くの町民に理解してもらおう」と設定し、相手意識と目的意識を明確化して、「図表の持つ役割や効果について自分の考えをもつ」活動を設定する。毎時間の授業の導入で、その活動について触れ、生徒が見通しを持ちながら学習できるようにする。
- また、「単元を貫く問い」の解決に向けて「シカの『落ち穂拾い』」を学習する際には、まず、図表を除いた本文だけを読み、どんなことが分かるかを考えさせる。次に、図表のある文章と比較し、図表から分かることが根拠となること、図表を用いることで読者により分かりやすく伝えられることなどの図表の役割を理解させていく。また、「対話型言語スキル」を活用した「対話的な学び」の中で、自分では気づかない見方や考え方を交流し合うことで、より深い読みにつなげていく。
- 同時に「主体的な学び」では、自らの学習活動を振り返って、次の学習につなげることが重要となる。具体的には「何をどんな方法で学び、今後はどう生かすのか」「協働し、対話する中で新たに学んだことは何なのか」等を「振り返り」の中でメタ認知することが求められている。「振り返り」の視点を明確に示し、生徒が自分の学びを自覚化できるように工夫する。
- さらに、思考ツールを活用した板書や学習シートの工夫やICTの効果的な活用を図り、思考過程の可視化ができるような手立てを工夫する。具体的には、個人のタブレットに表示された思考を電子黒板に集約し全体で共有したり、グループ内での交流時もタブレットを活用しながら対話したりするようにする。それにより、誰が何を考えているのかが明確になるとともに、自己の思考の変容も可視化でき、メタ認知力の向上と「伝え合う力」の育成につながると考える。

学びを引き出す

学習活動を生む
「問い」の工夫
(言語活動の充実)

- ❶地域の目指すべき将来の方向性をより多くの人に理解してもらおうという課題解決的な学習活動を通して、「主体的な学び」を目指す。
- ❷対話型言語スキルを活用し、「対話的な学び」を充実させることで、資質・能力としての「伝え合う力」の育成を目指す。

学びを振り返る

思考過程の可視化と
学びの振り返り

- ❸思考ツールを活用した板書や学習シートを工夫し、生徒の思考過程がどのように変容したのかが可視化できるようにする。
- ❹振り返りの場面において、学習内容を振り返るだけでなく、資質・能力についての自己評価も行うことで、「伝え合う力」を意識できるようにする。

学びを支える

学びのUD化とICT
の活用及び支持的風土

- ❺一人一人の学びを的確に見取りながら支援を行うことで、生徒が対話しやすい雰囲気をつくる。また、ICT活用により情報の共有化を図ることで、日常的にも学級内での「伝え合う力」の育成に努める。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	記録の文章を読み、本文と図表の役割の関連について自分の考えをもつことができる。	
国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
イ 「文章と図表などとの関連を考えながら記録の文章を読む」言語活動を通した指導		
①文章と図表との関連を捉えながら、記録の文章を読もうとしている。	①説明されている事実と図表との関係を整理し、文章の要旨を捉えている。(イ) ②説明の文章を展開する上で図表が果たす役割を捉え、その効果について自分の考えをもっている。(エ)	①文章を読んで意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈上の意味を考えている。(イ(イ))

4 指導・評価の計画（6時間取扱い 本時5／6）

単元を貫く問い

「錦町人口ビジョン」が示している錦町が目指すべき将来の方向性をより多くの町民に理解してもらうには、どんな図表を用いたらよいだろうか。

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一	1	1 「単元を貫く問い」を理解し、学習の見通しを立てる。 2 漢字や語句を確認する。 3 図表を外した本文を読み、大まかな内容を捉える。	【関心・意欲・態度】①：学習シート 【言語の知識・理解・技能】①：学習シート 【学びを引き出す】 ①地域が目指す将来の方向性についてどんな図表が必要か、目的・相手意識を明確にする。
	2・3	4 文章と図表との関係を読み取り、全体の構成や文章の要旨を捉える。	【読む能力】①：学習シート 【学びを振り返る】 ③文章と図表の関係をどう捉えたかの思考過程を明確にする。 ④視点を明確にして「振り返り」を行い、メタ認知力の向上を図る。
二	4	5 図表が果たしている役割や図表が用いられていることの効果について、自分の考えをもつ。	【読む能力】②：学習シート 【学びを引き出す】 ②「対話型言語スキル」を活用し、「対話的な学び」の充実を図る。
	5 本時	6 「錦町人口ビジョン」を読み、その根拠となる図表を探し、その理由を自分の言葉でまとめる。 7 図表の役割や効果について自分の考えをもつ。	【読む能力】②：学習シート 【学びを引き出す】 ②「対話型言語スキル」を活用し、「対話的な学び」の充実を図る。 【学びを支える】 ⑤ICTを効果的に活用し、情報を共有化する。
	6	8 自分の考えた文章をグループや全体で交流する。	【読む能力】②：学習シート 【学びを振り返る】 ④単元全体を通した「振り返り」を行い、何が身に付いたのか等を明確にする。

5 本時の学習

(1) 目標

文章にふさわしい図表を選び、その理由を伝え合うことを通して、図表の持つ役割や効果について自分の考えをもつことができる。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 5 分	1 本時の目標を確認する。 学習目標（めあて）	○「シカの『落ち穂拾い』」での既習事項を生かしながら取り組むことを伝える。	電子黒板
展開 40 分	「錦町人口ビジョン」を参考に、図表の持つ役割や効果について自分の考えをもとう。		
	2 【本時の問い】に取り組む。		
	【本時の問い】 文章にふさわしい図表はどれか、根拠を明確にして2つ選ぼう。		
	(1) 自分なりの考えをもつ。 (2) 互いの考えを交流する。 （対話型言語スキルの活用） ・私は、○に□□と書いてあり、それが△△につながるの で、〇〇と考えました。 みなさんはどうですか？ それは、つまり……ということですか？ 例えば、何ですか？ ○〇さんの意見を聞いて、思いついたのですが……。みんなの意見をまとめると、だと分かりました。	○タブレットの中に6種類の図表を準備しておく。 【学びを支える】生徒が選んだ結果を電子黒板に一斉に示し、情報の共有化を図る。 ○適切な図表は3つある中で、なぜ、その2つを選んだのか、理由を明確にして交流させる。 徹底指導 （ポイント） 考えの根拠を明確にして、相手に伝えさせる。 ○交流活動で出された考えは、各自でメモを残すように促す。 ○「対話的な学び」となるように、教師による適切な言葉かけや支援を行う。 【学びを引き出す】対話型言語スキルを活用して、自分では気付かなかった新たな考えをまとめる。 ○発表した内容について、適切な価値付けを行う。 能動型学習 （ポイント） よりふさわしい図表を選んだ理由を、文章の内容と関連付けて考えることができるようにする。	学習シート 電子黒板 タブレット
	(3) 全体で考えを交流する。 【言語活動】（設定の意図） グループでの交流をもとに、文章にふさわしい図表を全体で検討し、図表の持つ役割や効果を考える。	○図表の役割や効果について、できるだけ具体的にまとめるように伝える。 評価：読む能力②（学習シート） B基準 図表の役割や効果について、既習事項や本時の学習を参考にして、自分の考えをまとめている。 A基準 図表の役割や効果について、友達の見解や自分の知識や経験などを交えて、自分の考えをまとめている。 〈B基準に達していない生徒への手立て〉 ○友達の見解を聞きながら、一番納得した意見を参考にし、て書けるように支援する。	学習シート タブレット 学習シート
整理 5 分	4 本時の振り返りをする。	○振り返りの視点（授業で学んだこと等）について、学習シートに記入させ、発表させる。 ○図表を用いた文章を書く学習でも活用させる。	電子黒板